



2024年1月 能登半島地震のようす
(提供:石川県)

過去の災害から学ぶ 未来に生かす

くわしいことは2・3ページへ



横浜市職員による被災地支援のようす



市長だより

2024年1月1日に、能登半島地震がおきて、まもなく1年がたちます。いつ来るかわからない大きな地震にそなえて、過去の災害の経験を生かすため、横浜市は、根本的な対策をめざして、「新たな横浜市地震防災戦略(素案)」を公表します。

能登半島地震では、大規模な土砂くずれがあり、きびしい寒さ、断水や避難生活が長くなり、苦しい状況が続きました。横浜市の職員がのべ1,600人以上、被災地に応援に入りました。そこできびしい状況を見た職員たちの声や、市民アンケートによる多くの方々の声をきいて、

戦略には4つの柱があります。①地震火災・耐震への対策、防災公園の整備など『市民や地域の“災害が起きる前からの備え”を強くする』

こと、②避難環境を改善し、妊産婦や高齢者など配慮が必要な人はもちろん『だれもが安心して避難生活を送ることができる』しくみをつくること、③救援活動や緊急物資輸送の中心となる『横浜で初めての広域防災拠点をつくる』こと、④上下水道の耐震化や緊急輸送路の整備などをさらに加速する『災害に強いまちづくり』を目標にしています。これからも、過去の震災から学び、また、市民のみなさんからの意見をききながら、市民のみなさんといっしょに、よりいっそうの防災・減災対策をすすめます。そして横浜を、市民のみなさんの命とくらしをまもる「災害に強いまち」にしていきます。

横浜市 山中竹春

いつ起きてもおかしくないから

2025年1月で、能登半島地震から1年、阪神淡路大震災から30年になります。

首都直下地震は30年以内に70%の確率で起きるといわれています。

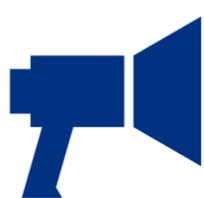
地震から自分と家族をまもるためには、行政による「公助」にくわえ、自分たちで自分たちをまもる「自助」、

そして地域で助け合う「共助」がどうしても必要です。

過去の災害から学んで、『まだだいじょうぶだろう』ではなく『明日起きるかもしれない』という意識で、

今できる備えをしっかりと行いましょう。

2024年1月 能登半島地震のようす(※)



安全・安心なまちをつくるために 新しい横浜市の地震防災戦略

能登半島地震の状況の分析や、被災地支援をした職員の声、市民アンケートなどをとりいれて、「地震防災戦略」を新しくし、市の地震防災対策をさらに強くしていきます。

市民の声 (大規模アンケートから)

- 食料・水・トイレパックの備蓄をしていない
- 高齢の家族の避難が心配
- 避難所のトイレやプライバシー、衛生、眠る環境が心配

被災地支援をした職員の声

- 道路があちこちで通れなくなり、救助や物資運搬に大きな影響があった
- 自分の家で避難生活をする人などへの支援も必要になる
- 耐震化をしているかどうかで被害状況が変わる



▲のと里山海道(※)

こうした声をよく聞いて…

せん 略 の 4 つ の はしら 柱



自分の家での備蓄を支援する、地震火災対策や住宅耐震化をすすめる、防災公園を整備するなど、**市民や地域の“災害が起きる前からの備え”**を強くします。



避難所の環境をよくして備蓄品を充実させ、**だれでも安心して避難生活ができる**ようにします。



全国から集まる広域支援部隊[※]の活動をささえて、市内に救援物資を早く送りどけるために、**横浜で最初の広域防災拠点**をつくります。

※消防、警察、自衛隊、医療従事者など



上下水道の耐震化をすすめ、災害が起きたときの避難・救助・物資運搬のための緊急輸送路の整備を早くすすめて、**災害に強いまちづくり**をすすめます。



12月中ごろから

横浜市地震防災戦略(素案=もともになる案)について
市民のみなさんの意見をください



かわいいことは
こちら

今、震災に備えよう

2024年1月 能登半島地震のようす(※)



自分の家の備えをチェック

地震などが起きてすぐは、人命救助が最優先になり、支援物資がなかなか来ないこともあります。まずは自分で最低3日分の備蓄品を備えて、定期的に確認しましょう。



詳しいことは
こちら



水・食料

9リットル/1人



トイレパック

15個/1人



モバイルバッテリー



カセットコンロ



おむつ・生理用品



自分の生活に合わせて用意しよう！

赤ちゃん用ミルクや、いつも使う薬など、自分の生活に合わせて、必要なものを準備しましょう。

きくところ 総務局地域防災課 TEL:045-671-3456 FAX:045-641-1677



地域で防災力を高める

災害が起きて自分の家で生活ができなくなった場合には、地域防災拠点で避難生活をするようになります。

そのため、避難生活がどんなものなのか体験しておくことが重要です。

ぜひ訓練に参加して、災害に備えましょう。



近くの
地域防災拠点は
こちら

参加した人の声

避難するときの生活スペースを確認できた

参加してなかったら、いざというとき何もできないと思った



▲スペースの区割り訓練



▲仮設トイレを準備する訓練

きくところ 総務局地域防災課 TEL:045-671-2011 FAX:045-641-1677



命をまもるとりくみへの横浜市の補助

家のテレビが防災アイテムに

よこはまテレビ・プッシュ

災害が起きると自動でテレビがつき、音声とテレビ画面で緊急情報をつたえます。初期費用28,600円を横浜市が全額補助！



詳しいことは
こちら

きくところ 総務局緊急対策課

TEL:045-671-2143 FAX:045-641-1677

今すぐできる地震対策

防災ベッド・耐震シェルター

建物がこわれたとき、身をまもることができます。

補助額

防災ベッド・テーブル …… 20万円まで
耐震シェルター …… 40万円まで



▲防災ベッド



▲耐震シェルター



詳しいことは
こちら

きくところ 建築局建築防災課 TEL:045-671-2930 FAX:045-663-3255

絵本がいっぱい!

18区すべて、市内27館リニューアル

「もいもい」でおなじみの絵本作家 市原淳さんがプロデュース

ちく地区センターのプレイルームに

みんなで行こう!



▲「もいもい」市原淳作(ディスカヴァー・トゥエンティワン)



ちく地区センターのプレイルームは、予約なし・無料で利用できます。小学生になる前の小さい子どもたちが、雨の日でも寒い日でも、あたたかい部屋でのびのび遊べるスペースです。

今年リニューアルした27館には、新しいおもちゃがいり、120冊以上の絵本コーナーもあります。ぜひ遊びに来てください。



プレイルームをリニューアルした地区センター



予約なし & 無料



赤ちゃんや小さな子どもたちのために、図書館司書がしっかり選んだ、120冊以上の絵本



子どもの育ちを ささえるおもちゃも いっぱい!



ちく地区センターでは、子育て相談や読み聞かせなどのイベントもしています。かわいいことは、それぞれの地区センターウェブページをご覧ください。



広報よこはまPlusでは、赤ちゃんから大人まで、みんなで楽しめる「地区センター」を紹介します。



きくところ 市民局地域施設課 TEL:045-671-2326 FAX:045-664-5295

YORUNOYO 2024 ヨルノヨ 夜にあらわれる光の横浜

さいだいきゅう 日本最大級のイルミネーションイベント

ヨルノヨ2024

12月5日(木よう)~30日(月よう) 17:00~21:05



ハイライト・オブ・ヨコハマ



おお 大さん橋くじら座

冬の横浜では、横浜駅のあたりから山手まで、都心臨海部の40をこえるエリアで、11月1日(金よう)から3月2日(日よう)までの間、「夜の横浜イルミネーション」を行っています。

この12月5日(木よう)からは、「ヨルノヨ2024」もスタート! 港の水際線と町なみが光と音楽にあわせて躍動する「ハイライト・オブ・ヨコハマ」や、横浜港大さん橋での大規模なプロジェクションマッピング、山下公園での光の演出など、一年で一番の港のかがやきが楽しめます。

美しい光でいどられた町をめぐって、横浜の魅力を再発見してみませんか。【場所】横浜港大さん橋、山下公園 ほか

町めぐりをもっと楽しめるスタンプラリーも!



かわいいことはこちら

きくところ クリエイティブ・ライト・ヨコハマ実行委員会 TEL:045-323-9142 FAX:045-323-9143

12月4日~10日は人権週間です あいて 相手や自分を思う気持ちを大切にしよう

『〇〇だから』と言ったこと、言われたこと、ないでしょうか？

- 障害のある人だから
- 女性/男性だから
- 外国人だから
- こういう仕事をしている人だから
- 働いていない人だから

自分の経験をふりかえって、思いこみや決めつけが“あるかもしれない”“ない気がする”と考えることも、人権尊重への大切な一歩です。ウェブページにはコラムもあります。これをきっかけにして、「人権」を自分のこととして考えてみませんか。



コラムはこちら



2024年度人権啓発ポスター
最優秀賞(横浜デジタルアーツ
専門学校 三谷小雪さんの作品)

2024年度 全国中学生 人権作文コンテスト 横浜市大会

市内中学校124校から55,323作品が集まり、横浜市長賞には『自分も誰かにとっての『他人』』という作品が選ばれました。

作文集は、12月6日(金)からウェブページで読めます。中学生が自分の体験などから感じた思いに、ぜひ触れてみてください。



詳しいことは
こちら

きくところ 市民局人権課 TEL:045-671-2718 FAX:045-681-5453

12月はいじめ防止をすすめる一か月です いじめから子どもたちをまもるために

いじめの防止や発見には、保護者や学校・地域などの大人の協力が重要です。地域の大人どうしのコミュニケーションやつながりをふやせば、子どもたちを見まもるネットワークも広がります。

「傷ついているかも」という子どもを見かけたら…
学校のほかにも相談できる場所があります

24時間子どもSOSダイヤル

TEL:0120-078310

いじめやこまったことなどについて、相談員がいつでも考えます。

【対象】市内に住んでいる、または市内の学校にかよっている子どもとその保護者

365日
24時間
いつでも

学校生活あんしんダイヤル(いじめのもうしたて窓口)

TEL:045-624-9081

いじめや不登校のなやみについて、スクールソーシャルワーカーが、どうしたらよいかをいっしょに考えます。

【対象】横浜市立の学校にかよう児童生徒とその保護者

火~金ようの
9:00~
17:00

いじめ防止市民フォーラムを開きます！
いじめに対して「一人ひとりができること」を、子どもと大人がいっしょに考えます。

【日時】12月11日(水)13:30~15:35
【会場】市役所アトリウム

自由に見に来てください

詳しいことは
こちら

きくところ 教育委員会事務局人権教育・児童生徒課 TEL:045-671-3296 FAX:045-671-1215



海、港、緑、歴史、地域、人々など、さまざまな魅力を持つ横浜。このまちの彩りを「よこはま彩見」として届けていきます。今月は写真家の森日出夫さんからお話です。

海から、空から、記憶を記録する

写真家 森日出夫

ウェブ版では、抽選で読者プレゼントがあります



私は横浜で生まれて育ちました。その横浜のまちを写真に撮り続けて半世紀がたちます。海から、陸から、ときには空からも撮影します。世の中の変化は早く、むかしからあった建物がなくなったり、風景が変わると、そこがどんな形でどんな色だったか思い出せなくなってしまう。忘れられてしまうまちや人のいた風景をのこすのが私の日常です。好きな時間帯は明け方で、赤レンガ倉庫や大さん橋から見る港の朝焼けは光りかがやいて美しく、希望を感じさせます。働く人やジョギングを



している人たちも朝日をあびてドラマチックな絵になります。野毛や商店街も朝早く歩くとまた面白く、夜のザワザワとしたさわがしさがリセットされ、新しい一日が始まる予感をあびながらシャッターを押すと昨日とはまったくくちがう表情が写っています。

きくところ 政策経営局広報課 TEL:045-671-2331 FAX:045-661-2351

この写真はヘリコプターで上空から撮影した「扇島」の製鉄所です。長年気になっていて許可をもらうまで時間がかかりましたが、どうしても撮りたかった場所でした。失って初めて存在の大きさに気づくことがわかっていました。まさに休止される一歩手前でした。第2高炉の火が消える瞬間まで記録することができました。稼働が止まる夜中の3時ごろ、働いていた人たちの目に涙があふれていたあの瞬間が忘れられません。

◀扇島からみなとみらい21地区の方向を望む(2023年撮影)

森日出夫(もりひでお)

写真家。1947年、横浜市生まれ。JPS(日本写真家協会)所属。長年撮りつづけた横浜の港・まち・人を「森の観測」と名づけ、これらの作品を写真集や個展に多く発表。1996年、ニューヨークADC MERIT AWARD受賞。2001年、横浜文化賞奨励賞受賞。



ねんまつねん し よこはま し 年末年始の横浜市からののお知らせ



し せつ 施設がお休みになる日

ねんまつねん し じゅうみんひょう ひつよう
年末年始に住民票が必要に
なったら、マイナンバーカードを
持ってコンビニで!



コンビニ交付は
こちら

し やくしよ く やくしよ
市役所・区役所 **12月28日(土よう)～1月5日(日よう)**

12月28日(土よう)区役所は午前中だけ開きます
(一部の業務だけ)

ぎょうせい
行政サービスコーナー **12月29日(日よう)～1月3日(金よう)**

し りつ と しよかん ぜんぶ
市立図書館(全部)

12月29日(日よう)

～1月4日(土よう)12:00 ぐわしいことは
こちら
いちぶ としよとりつぎしよ きかん
一部の図書取次所は、お休み期間がちがいます。



きくところ 行政サービスコーナーについて それぞれの行政サービスコーナーまたは市民局窓口サービス課 TEL:045-671-2176 FAX:045-664-5295
市立図書館について 中央図書館 TEL:045-262-0050 (代表) FAX:045-262-0052

きゅうに病気になったとき、けがをしたとき

かながわきゅうそうだん かながわ救急相談センター

いつでも1日24時間れんらくできます

TEL:#7119

TEL:045-232-7119

または TEL:045-523-7119

FAX:045-242-3808

(耳が不自由な人だけ・医療機関案内)

よこはまし きゅうきゅうじゅしん 横浜市救急受診ガイド

すぐに病院に行くほうがよい
のかどうかまよるときには、ウェブ
ページから緊急
性や受診の必要性
を調べられる横浜
市救急受診ガイド
を使ってください。



救急受診
ガイドはこちら

や かんきゅうびよう 夜間急病センター

一年中お休みなし・20:00～24:00

診療科目

内…内科 小…小児科(子ども)
眼…眼科 耳…耳鼻咽喉科

桜木町(中区桜木町1-1)	内 小 眼 耳	045-212-3535
北部(都筑区牛久保西1-23-4)	内 小	045-911-0088
南西部(泉区和泉中央北5-1-5)	内 小	045-806-0921

※日よう・祝日・12月30日(月よう)から1月3日(金よう)の昼間に病気になったら、住んでいる区の休日急患診療所を利用してください。

きくところ かながわ救急相談センターについて 神奈川県健康医療局医療整備・人材課 TEL:045-210-1111 FAX:045-210-8858
横浜市救急受診ガイドについて 消防局救急企画課 TEL:045-334-6413 FAX:045-334-6710
夜間急病センターについて 医療局救急・災害医療課 TEL:045-671-3932 FAX:045-664-3851

ねんまつねん し しげんぶつ しゅうしゅう 年末年始のごみと資源物の収集

12月31日(火よう)～1月3日(金よう)
ごみ収集はお休みです。

※粗大ごみの受付センターもお休みです

●今年最後の収集日は12月30日(月よう)です。
ごみは朝8:00までに出してください。収集
した後は、ぜったいにごみを出さないでく
ださい。

※ぐわしいことは、ごみを出す場所に出るお知らせ、
または横浜市ウェブページで見てください。

※古紙・古布(=いらない紙や布)の
「資源集団回収」の日程は、自治会・
町内会などが、回収業者へ直接きい
てください。



ぐわしいことは
こちら

ねんない
粗大ごみは12月がとくにこみ合うため、年内に
収集できないことがあります。 前もってもうしこみが必要



もうしこみは
こちら

そ だい うけつけ 粗大ごみ受付センター

インターネット・チャット・
LINEでのもうしこみ

12月30日(月よう) 12:00か
ら1月3日(金よう)にもうしこん
だ人への連絡(いつ取りにくる
かなどのお知らせ)は、1月4日
(土よう)より後になります。

電話でのもうしこみ

月～土よう(祝日・休日もOK)8:30～17:00

12月31日(火よう)から1月3日(金よう)はお休みします。

●一般加入電話(=固定電話)などからの場合
TEL:0570-200-530

●携帯電話やIP電話などの定額制や無料電話などの通話
料割引サービスを利用している場合
TEL:045-330-3953

きくところ 住んでいる区の資源循環局収集事務所または資源循環局業務課 TEL:045-671-3815 FAX:045-662-1225